

第5回「まつぎのまちづくり」

松崎町は、古くは風待ち港として、たくさんの人と物が行き交い発展してきた町です。その町が財政的な危機に陥った時の故依田敬一町長は、外部人材である石山修武氏を登用し、漆喰文化を中心に据えたまちづくりを行いました。そのまちづくりは当時の時代に適応し、日本三大視察町として全国にその名を馳せました。その時のまちづくりを今の若い人は知らないと思いますが、先日、この春に大学の建築科を卒業した若者が、卒業制作として、その当時のまちづくりと避難タワーを掛け合わせた模型作品をもって、役場を訪ねてくれました。

その成果物は、当時のまちづくりのビジョンをよく研究し、松崎らしいデザインで避難タワーを設計したものでした。松崎町の歴史である当時のまちづくりがわかりやすく見られます。環境センターのロビーに、しばらくの間、展示したいと思いますので、この機会に是非松崎町のまちづくりを知る機会となれば幸いです。